

明日へつなぐ

人ごとではない熊本地震。福津市にも西山断層があり、同じような大地震が発生しないとも限りません。大地震が発生すると、いったいどのような状況になるのでしょうか。私たちは備えができていたのでしょうか。そこで、最初の震度7を観測してから7日目となる4月20日、熊本県の益城町取材してきましたので皆さんに紹介します。今一度、被災地や被災者のこと、そして自助や共助などについて考えてもらえたらと思います。



- | | | | |
|---|---|---|---|
| ⑩ | ⑦ | | ① |
| | ⑧ | | |
| ⑪ | ⑨ | | ③ |
| | | ⑤ | ② |
| | | ⑥ | ④ |
- ①1階部分が潰れたアパート。益城町市街地
 - ②断層上なのか周辺の複数の家屋が倒壊している。益城町市街地
 - ③斜めになりながらも、かろうじて建っている倒壊寸前の家屋。益城町市街地
 - ④避難所生活する子ども連れの家族。お母さんは「小学校が休校なので、子どもは勉強もせず運動もせずゲームばかり」と心配していた。益城町保健福祉センター
 - ⑤アスファルトが割れ、40cm程浮いているマンホール。益城町市街地
 - ⑥震源地から離れていてもパンやおにぎり、水やお茶などは売り切れだった植木インターそばのコンビニエンスストア。熊本市北区
 - ⑦支援物資の中継基地では、自衛隊や消防や自治体の職員、大学生のボランティアなどが搬入搬出をしていた。熊本市東区の熊本県民総合運動公園陸上競技場
 - ⑧2000台以上もの車を止めることができる広大な駐車場も、車中泊避難者の車でいっぱい。益城町のグランメッセ熊本
 - ⑨避難者用の仮設トイレも複数設置していたが、一部のトイレは詰まったりで使用不可になっていた。益城町のグランメッセ熊本
 - ⑩町の職員や消防団、ボランティアがバナナなどの支援物資の配給係をしていた。民間企業からも多くの物資が届けられていた。益城町のグランメッセ熊本
 - ⑪自衛隊による水の配給。自衛隊以外にも、熊本県内外の複数の自治体から給水車が派遣されていた。益城町のグランメッセ熊本

福津市からも支援物資を届けました



4月18日から義援金と支援物資を受け付けた福津市。この日に福津市で備蓄している物資の一部を熊本市へ。そして皆さんからお預かりした物資も4月20日と5月6日に、消防の中継基地と位置付けられている山鹿市へ届けました。ほかにも避難者の相談を受けたり、住宅支援を行ったりしています。6月10日には職員も派遣する予定です。

福津市商工会青年部は現地で被災者支援



福津市商工会青年部も4月22日、熊本市と益城町の避難所に支援物資を届けるとともに、2000食のうどんの炊き出しも行って来たということです。青年部長の銭花博司さんは「温かいうどんということもあり、被災者のかたからとても喜んでもらえました」と語っていました。

何度も何度も大きく揺れ怖くて眠れません

「ドン！ドン！」という大きな音と同時に下から突き上げられ、体が宙に浮きました。すぐにガタガタと経験したこともない大きな揺れが……と語る被災者。4月14日のマグニチュード(M)6.5の前震に続き、4月16日のM7.3の本震で震度7を連続して観測した益城町の被災者たちは皆一様に同じことを語っていました。さらに「何度も地震が続いて怖い。家の壁や柱にひびが入っていて、いつ倒れるかと思うと眠ることができません」とも語っていました。最初に訪ねたグランメッセ熊本で聞いた声です。この避難所は建物に被害が

あったことから室内が使えず、広場と広大な駐車場が拠点となっていました。避難しているかたたちは大半が車中泊で夜を過ごしていました。益城町ではグランメッセ熊本以外に、屋内が避難所となっている広安西小学校、保健福祉センターに行きましたが、避難してきている被災者は皆、度重なる余震と見えないうちに不安を感じ疲れていました。断層がある付近には倒壊家屋がいたるところにありました。そんな中、雰囲気明るくしていたのがボランティアたちでした。地震発生から7日目ですが続々と集まり、明るい笑顔で事務局や被災者の手伝いや手助けをしていました。支援物資の中継基地になっていた陸上競技場でもボランティアが活躍していました。福津市にある西山断層で、もし大地震が起きたら……。あなたが住む家は、そして家族は大丈夫でしょうか。地域は大丈夫でしょうか。「まさか……」「こんなことは初めて……」「過去に聞いたこともない……」。被災者の多くのかたから聞いた言葉です。



▲梅雨の大雨にも注意しましょう。防災マップには、大雨、洪水、地震などの役立つ情報が載っています。問い合わせ 市防災安全課 ☎43-8107